



令和7年3月6日

立川市議会

議長 福島正美 殿

立川市議会文教委員会

委員長 瀬 順 弘

行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察月日

令和7年1月20日（月）

2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
東京都八王子市	小中一貫教育について

3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

行政視察報告書

日 時： 令和7年1月20日（月）

視 察 先： 八王子市立いずみの森義務教育学校

視察項目： 小中一貫教育について

視 察 者： 立川市議会文教委員会（瀬 順弘、永元香子、原 ゆき、高畠奈美、門倉正子、
中山ひと美）

1. 調査の目的

立川市議会文教委員会では、「地域に根ざした学校施設のあり方」を所管事務調査のテーマとし、インクルーシブ教育、小中一貫教育、学校と地域の関わり、施設複合化など、ソフト・ハードの両面で学校施設のあり方を検討するための調査を行うこととした。

八王子市では、令和2年4月に多摩地区初の義務教育学校として「いずみの森義務教育学校」を開校しており、義務教育学校における小中一貫教育の取り組みや施設などを調査し、立川市における今後の小中一貫教育の考え方の参考とするため視察を行った。

2. 調査概要

八王子市立いずみの森義務教育学校にて、校長・副校長から教育活動について、八王子市教育委員会教育部学校教育課から施設についての説明をいただいた後、学校内を見学をさせていただいた。

（1）義務教育学校における教育活動について

●学校の概要

- ・前期（1～6年生）児童929人、後期（7～9年生）生徒413人、児童生徒合計1,342人
- ・普通級のほか、難聴通級指導学級（前期課程・後期課程各1学級）、言語障害通級指導学級（前期課程2学級）、特別支援教室（後期課程拠点校）を設置
- ・教職員は、校長1名、副校長4名、教員および職員121名の計126名

●教育活動

- ・児童生徒の実態を踏まえた教育活動を設定するため、9学年をⅠ期（1～4年生）・Ⅱ期（5～7年生）・Ⅲ期（8～9年生）に区分
- ・生活時程は、授業の1単位時間についてⅠ期は45分、Ⅱ・Ⅲ期は50分で設定
- ・日常的にⅡ・Ⅲ期の児童生徒がⅠ期の児童の生活をサポートする場面を設定するなど、異学年交流活動を積極的に実施
- ・学力向上やいわゆる中1ギャップの解消を図るため5年生から教科担任制を導入し、学期末には定期テスト（7年生から2学期は中間テストも）を実施
- ・全校行事として、文化的行事の「いずみの森フェスティバル」（音楽発表、学習発表、合唱コンクールなど）、いずみの森大運動会（2日間）などを実施

- ・学校教育目標「創造」「共生」「健康」を9年間の系統的・継続的に指導
- ・1～9年生のたてわり半活動による「わくわく清掃」を実施
- ・部活動は受け入れ可能な部活動は5年生から参加でき、対外的な活動（公式戦など）は7年生から

（2）学校施設について

- ・いずみの森義務教育学校は令和2年4月に開校したが、現在の校舎が完成し供用が開始されたのは同年度2学期から
- ・学区域内の児童生徒数の増加や、施設の老朽化のため、まちづくりと一体化した施設の複合化を伴った整備（保育所、学童保育所、地域コミュニティスペースを複合）
- ・複合施設及び一般利用のある体育館は独立した玄関があり内部も区分されているが、窓から互いの様子が感じられ、交流時には扉を開け行き来ができるようになっている
- ・プールは屋上に設置され、9学年の利用が可能となるよう可動床になっている。また室温、水温の維持調節が可能なガラスの可動屋根がある。プールを使用しない期間は床面をプールサイドレベルまで上げ、人工芝を敷いて広場としている。
- ・プロジェクター映写対応黒板が設置されており、プロジェクターは可動式で黒板の左右、中央のどちらにも映写可能
- ・教室と廊下には間仕切りがあるが、開放することができ廊下を多目的スペースとして使用できる
- ・公立学校共済組合の補助を受け、全国初となる教職員の健康維持や回復等を目的とした「いずみのほっとルーム」が設置され、産前産後の女性職員や、体調不良時の休憩場所として使用されている

（3）質疑応答

- Q. 工期と建設費はどの程度か？
- A. 設計で約4年、校舎完成までトータルで約9年半。総工費は約79億円。
- Q. 体育館は大小2つあるが、児童生徒数が多いのでプールは1つで問題ないのか。
- A. 屋根があるため雨天で中止になったり、ある程度の温度管理ができることから使える期間も長く、特に問題ない。
- Q. 児童生徒数、教職員数も多いが、学校行事で工夫や配慮している点は？
- A. 全教職員が共通認識をもって取り組んでいることから円滑にできている。児童生徒も普段のたてわり活動で異学年との交流に慣れている。全学年ではない行事でも通常は全教職員が対応している。
- Q. 9年間同じ学校なので、児童生徒間で人間関係が崩れると大変ではないか？
- A. クラスは毎年度変わり人間関係が固定化されてない。教員も多いので児童生徒も相談しやすい。

3. 所感

異学年の交流が年間を通して計画されており、高学年の生徒が低学年の児童にやさしく接する姿が頻繁にみられるとのことで、小中一貫校・義務教育学校の良さのひとつと改めて感じた。

小中一貫校と異なり校長が1人ということで気になっていたが、副校長が4名でそれぞれ各分掌を統括されており問題なく運営できているとのことであった。

新しい校舎は発達段階に合わせた様々な工夫（手洗いの高さの違いなど）がされていることもよくわかり、教育、施設面で大変参考となる視察であった。

お忙しい中、説明や質問にも快く応じていただいた校長・副校長先生、八王子市教育委員会学校施設課の皆様に、心より感謝申し上げます。

以上



